

都市再生整備計画（気高地区）事後評価 概要版

① 都市再生整備計画事業とは？

都市再生整備計画事業は、地域の歴史・文化・自然環境等の特性を活かした個性あふれるまちづくりを実施し、都市の再生を効率的に推進することにより、地域住民の生活の質の向上と地域経済・社会の活性化を図るものです。
事業の最終年度には事後評価を行います。



② 事後評価の目的・内容

評価の目的	事後評価は、都市再生整備計画で設定した目標の達成状況とその効果要因等を整理して、今後のまちづくりに活かすための作業であり、事業の成果を住民のみみなさんに分かりやすく説明することを目的とします。
評価の内容	①まちづくりの目標の達成状況等の確認 ②課題の変化の整理 ③今後のまちづくり方策の検討

整備区域図

都市再生整備計画区域

凡例

- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業

■基幹事業 ①
浜村駅前広場（地域生活基盤施設）



■基幹事業 ②
浜村駅前トイレ（高質空間形成施設）



■基幹事業 ③
案内板（地域生活基盤施設）



□提案事業
事業効果分析（事業活用調査）

■基幹事業 ④
南北線街路灯整備（高質空間形成施設）



○関連事業 ⑤
東西線街路灯灯具交換



■基幹事業 ⑥
市道勝見浜村線の拡幅（道路）



○関連事業 ⑦
・市道浜村乙亥正線の拡幅
・気高道の駅の整備



都市再生整備計画（気高地区）事後評価 概要版

③ 計画段階に設定したまちづくりの課題と目標

- 地区の課題**
- ① 浜村駅は機能性・利便性・安全性等の確保、新たな賑わい空間の創出、人・情報の活性化等が必要
 - ② 浜村駅周辺は若い世代の定住促進が課題であり、暮らしやすさと豊かな自然環境を活かす対策が必要
 - ③ 主要路線、地域の出入口機能として、駅前とICとの動線を確保する
 - ④ 地域の魅力施設のさらなる利用促進とまちのにぎわいに繋げる

- 地区の目標**
- 大目標：安心して住み続けられる生活環境を構築し、市民の日常生活を支える地域生活拠点の再生を目指す。
- 目標1：交通結節点の機能強化により、まちの玄関口としての利便性を向上させる。
- 目標2：駅にアクセスする幹線整備により、安心・安全で魅力あるまちづくりを推進する。

④ 事後評価－1 まちづくりの目標達成状況等の確認

目標を定量的に評価するための指標	従前値	目標値	事後評価	達成状況	効果発現要因（総合所見）
指標1 地区内の居住人口	H27 3,358人	R2 3,257人	R3 3,427人	○	豊かな自然環境や交通利便性の向上などを背景に、UJIターン住宅支援等による空地の利用促進、アパートから新築への移住などにより、地区内の居住人口の増加につながったと考えられる。
指標2 JR駅利用者数	H27 17.2万人/年	R2 16.0万人/年	R2 14.3万人/年	×	令和2年度は新型コロナウイルス感染対策（外出自粛や利用控え）等により、乗降客が大きく減少し、目標値を下回ったものと考えられる。しかし、令和元年度までは目標値を上回って推移していることから、駅前広場やトイレ整備、市道拡幅などは駅利用者の利便性向上につながったと考えられる。
指標3 住民の定住意向に関する満足度（小中学校保護者）	H26 77.2%	R2 85.0%	R3 79.0%	△	目標値は達成できなかったものの、「どちらかといえば住みたい」と答えた人が減少し、「将来も住みたい」と答えた人が増加していることから一定の効果が見られていると評価できる。

当初は設定していなかった指標による効果発現状況

目標を定量的に評価するための指標	従前値	目標値	事後評価	達成状況	効果発現要因（総合所見）
住民の定住意向に関する満足度2（小中学校保護者）	37.7%	41.5%	43.7%	○	道路の拡幅や街灯の照度向上、案内板などによる誘導は、アンケート結果より一定の評価を得ていることから、定住意向に関する満足度の向上につながったと考えられる。
生徒の定住意向に関する満足度3（中学校生徒）	46.3%	50.9%	66.3%	○	H26 アンケート結果より定住意向に関する満足度は2割増加しており、各種事業の満足度も保護者より高い評価を得ていることから、今後のまちづくりに期待感を感じていると考えられる。

⑤ 事後評価－2 まちづくりの課題の変化

事業前の課題	達成されたこと	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
浜村駅は機能性・利便性・安全性等の確保、新たな賑わい空間の創出、人・情報の活性化等が必要	駅前広場、トイレなど駅周辺の再整備により、交通結節点としての機能改善、周辺住民・来訪者への利便性の向上が図られた。	新たな賑わい空間の創出、人・情報の活性化を図る必要がある。	新たな動線に対する安全確保を図る必要がある。 （街路灯、防犯灯の整備等）
浜村駅周辺は若い世代の定住促進が課題であり、暮らしやすさと豊かな自然環境を活かす対策が必要	UJIターン住宅支援等により新築住宅が増加しており、浜村駅周辺は若年層に限らず、世帯数、居住人口ともに増加していることから定住が促進された。		
主要路線、地域の出入口機能として、駅前とICとの動線確保	市道の拡幅により、浜村駅へのアクセス性の向上やIC、鹿野町への新たな動線が確保された。		
地域の魅力施設のさらなる利用促進とまちのにぎわいに繋げる	案内板の設置や街路灯の更新により、居住者や来訪者が快適で安心して通行できる道路空間が確保され、交通量が微増していることから、まちのにぎわいに繋がった。	地域の魅力施設のさらなる利用促進を図る必要がある。	

⑥ 事後評価－3 今後のまちづくり方策

効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
施設等の適正な維持管理	整備された施設等を当初の目的に沿って、快適に利用できる環境を維持することが必要である。	・地元との協働による維持管理
改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
定住人口の確保 地域コミュニティの維持 新たなにぎわい創出 交通の安全確保	子育て世代から高齢者まであらゆる世代に配慮したまちづくりを進め、交流人口の拡大を図るため、新たに設立された浜村地区活性化委員会を中心に、沿道緑化や定住促進、自然環境や地域資源を活かした事業計画を検討していく。	・定住促進事業のPR強化 ・地域コミュニティ活動支援 ・沿道景観整備や浜村温泉活性化事業等への支援 ・防犯灯設置事業

⑦ 事業概要

事業期間	国費率	面積	根拠法	計画名
平成28年度～令和2年度	40%	114ha	都市再生特別措置法	都市再生整備計画